

令和2年度 第1回 大垣市図書館協議会 会議録（要旨）

- 1 と き 令和2年10月30日（金）10時～11時30分
- 2 ところ 大垣市立図書館3階 会議室
- 3 出席者 （委員）
田村弘司会長、臼井博彦委員、西田拓郎委員、近藤則朗委員、
藤井洋子委員、高橋麻衣子委員

（事務局）
山本教育長、寺嶋教育委員会事務局長、加代図書館長、
田中図書館主幹、長瀬図書館主幹、早崎図書館主幹
- 4 欠席者 石橋豊之副会長
- 5 傍聴者 1名
- 6 次 第
 - (1)報告事項
 - ①令和元年度の事業報告について
 - ②令和2年度図書館の利用に関するアンケート調査報告について
 - ③図書館における新型コロナウイルス対策について
 - ④図書館システムと読書メーターとの連携について
 - (2)その他

1 開会 10:00

(事務局)

令和2年度第1回大垣市図書館協議会を開催する。

2 あいさつ

(山本教育長)

本日はお忙しい中、図書館協議会にご出席いただき、厚くお礼申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第1回の図書館協議会がこの時期になったことをご理解願いたい。図書館も4月から休館したが、6月に利用制限をした上で再開館した。新型コロナウイルス感染拡大が収束の兆しを見せないため、これからも予断を許さない状況が続くと思われる。国や県の基準に基づき、図書館はこれからも感染対策を継続していきたいと考えているため、ご理解とご協力をお願いしたい。

今年度は第2次教育振興基本計画の第1年次であるが、図書館が情報拠点として、また市民や地域の皆さまに役立つ施設として、役割を十分に果たすことができるように取り組んでいきたい。そのためにも、委員の方々の忌憚のないご意見を伺いたい。

3 報告事項(1)

令和元年度の事業報告について

(臼井委員)

利用者の概要について、昨年6月の会議で5年間の目標数値を出されていたが、入館者数や貸出冊数が増加したことは良いことだと思うし、図書館の取り組む様々な施策や職員の皆さんの尽力によるものだと思う。一方、墨俣と上石津の減少についてはコロナ対策の影響もあると思うが、この点は残念である。

(事務局)

墨俣図書館と上石津図書館の減少の要因としては、貸出業務は続けていたが、やはり新型コロナウイルス感染対策のため、3月に臨時休館した影響が大きいと思われる。大垣市立図書館が増加したのは、平成30年4月から6月まで空調設備改修工事にとまなう臨時休館があったことが影響し、前年度に比べ増加となったのが大きな要因かと思われる。

(西田委員)

入館者数等の状況はよくなっているが、こうした数値は他市と比較して、あるいは人口比としてはどうなのか。

(事務局)

入館者数等に関して他市との比較データは持ち合わせていないが、蔵書数に関して言えば、大垣は一人あたりの蔵書数が2.8冊であり、同規模人口の松阪市や宇部市が2.6冊であることから、この点は問題ないかと思われる。

(田村会長)

図書の貸し借りだけではなく、図書館としていろいろな行事が開催されており、報告を聞いてあらためて感心するし、こうした行事を通じて、図書館を身近に感じてもらうことは大切だと思う。今年度はこうした図書館行事の開催状況はどうなっているのか。

(事務局)

大人向けの講座である「ふるさと歴史講座」と「ふるさと古文書講座」は、十分なコロナ対策をした上で8月から再開した。「ふるさと歴史講座」は8月と9月に計4回開催したが、たいへん好評であった。「ふるさと古文書講座」は8月から再開し、現在も月に1回開催している。子ども向けの講座については、慎重を期して中止している状況である。

(臼井委員)

「大きな樹」の今年度のおはなし会の開催状況はどうか。

(藤井委員)

今年度は図書館の臨時休館もあり3月からおはなし会を開催していないが、依頼のあった静里幼稚園と川並幼稚園へは9月に訪問し、30分ほど紙芝居などを上演した。青墓小学校へは朝読で訪問しており、11月から各教室へ入る予定であるが、この夏は放送室でリモート対応し、子どもたちは教室でモニターを見る形となった。例年レギュラーで訪問している学校もあるのだが、今年度はコロナのため自粛しようと、お断りが来ている状況である。これからもいくつか予定が入っているが、私たちは先方から依頼があれば訪問するが、当方からどうですかと呼びかけることはできないため、現在は学校からの依頼を待っている状態である。

（臼井委員）

社会教育の関係でも、現在はコロナの影響で活動しづらい状況となっているため、参考にさせていただいた。

（田村会長）

今の状況で子どもたちを集めるのは難しいかもしれないが、リモートを活用したり、先ほどの報告にあったように図書館のスタッフが学校へ出かけたり、あるいは少人数で対応するのも、今後のウィズコロナの中で大切なことかと思う。来年になればコロナが消滅するということもなさそうなので、いろいろと工夫した取り組みが必要になってくると思う。

（西田委員）

大垣市立図書館と墨俣小学校とのコラボを先ほど紹介してもらったが、学校図書室や行事も充実し、双方がウィンウィンの関係で取り組めたことはありがたいと思っている。読書手帳も、学校のもの図書館のものを融合する取り組みをした。こうした良好な関係は他校にも広めていきたいと思う。

4 報告事項(2)

令和2年度図書館の利用に関するアンケート調査報告について

（藤井委員）

図書館の本には汚れた図書もあるが、最近は「汚れあり」のシールが貼ってあったり、本の内容を帯に表記してあるものも見受けられるため、そうした図書館の配慮や努力、サービスに感謝したい。

（田村会長）

岐阜県図書館はボランティアの手伝いもあるようだが、市も同様か。

（事務局）

そうした対応は、今のところ図書館職員で行っている。

（近藤委員）

汚れやにおいの付着は利用者側のエチケットの問題であるが、図書館としても注意を促すのがよいと思う。

(事務局)

カウンターにおいて職員が毎日、返却時に本の状態確認をできる限りの範囲で行っており、気になる点があれば、その場で利用者へお伝えしている。利用者もうっかり汚してしまう場合があるため、その点は注意喚起をお願いしつつ声をかけている。

(高橋委員)

アンケート調査報告書の23ページにある「他の公立図書館と比べて図書館の良いと思うところ」に「窓口職員の対応」の割合が一番多いのは、館長はじめ図書館職員の日々の努力や心づかいが利用者の方々に評価され、こうした結果が反映されているからだと思う。職員の一人一人も本が好きで、利用者に対して心から笑顔で接してくれるため、利用者も心が温まり、もう一度来たいと思える心地よい場所であるのが大垣の図書館の特徴であり、これが利用者の声として現れていると思う。

(田村会長)

こういう利用者からの評価があるということ、ぜひ館長から職員の皆さんに伝えてもらい、さらなる図書館サービスの向上につなげてほしい。こうした声は職員への励みになると思う。

5 報告事項(3)

図書館における新型コロナウイルス対策について

(田村会長)

非接触型体温計について、検温方法はどのようにしているのか。

(事務局)

入館者数のカウント業務をしていたときは、検温の希望者に対し、配置職員が非接触型体温計を用いて検温を実施した。歴史講座や古文書講座では、受講者全員に対し、職員が受講前の検温を行った。図書館入口の案内表示に発熱時の入館お断りの表示をしており、通常の入館者は自己申告としている。

(田村会長)

職員が検温するのは大変なので、サーモグラフィなどで検温できれば便利だと思うが、そのあたりの対応はどのようにお考えか。サーモグラフィの導入には経費が必要だが、今後は必要ではないかと思う。

(事務局)

現在のところ、サーモグラフィの導入・設置は検討していないが、書籍除菌機は購入設置した。

(山本教育長)

学校にはサーモグラフィを導入しているが、距離によって表示が異なるなど動作が不安定であり、非接触型体温計の方が正確な検温ができる。図書館は、遠方からの来館者もあるため、多少熱があっても、入館を完全にお断りするのが難しい場合もあり、必要に応じて対応を検討していきたい。サーモグラフィについては、将来的に予算がつけば配備することもあるだろうが、今のところは検討段階であることを承知願いたい。

(田村会長)

予算が必要な案件であるため、すぐに導入するのは難しいと思うが、コロナ対策は今後もきっと続くため、人を配置せずにする方法を検討していく必要があると思う。利用者側のマナーも必要だが、図書館へ行く前に自宅で検温してくる人は少ないだろうし、図書館は不特定多数の人が利用する公共施設であるため、今後は導入が必要ではないかと思う。

(山本教育長)

市役所へ入庁してもらったときの検温についても同様だが、悩ましいところである。サーモグラフィの公共施設への導入については、今後も引き続き検討していく必要があると思う。

6 報告事項(4)

図書館システムと読書メーターとの連携について

(田村会長)

データは他人は見ることはできないのか。新聞には掲載されたか。

(事務局)

データは本人しか見ることができない。新聞社の電話取材はあり、情報提供はしているが、今のところ新聞には掲載されていない。

(田村会長)

先進的な取り組みなので、積極的にどんどんPRしてほしい。

7 その他

(西田委員)

館内の電源利用やWiFi環境はどうなっているのか。

(事務局)

2階のビジネスコーナーでは机で電源を利用でき、館内はフリーWiFiの環境となっている。

(田村会長)

電子図書の状況はどうなっているのか。

(事務局)

大垣市電子図書館として開設している。郷土資料をデジタル化し、現在209冊の電子図書を提供している。一般小説などは著作権の問題もあり、ライセンスやアクセス権などの取得が必要となってくる。今後、取り扱う電子図書の分野については、検討していきたい。

※別添資料「大垣市図書館が取り上げられた新聞記事」(p.4)に電子図書館に関する記事を掲載。

(西田委員)

大河ドラマ『麒麟がくる』の舞台として、県内では盛り上がりを見せている。大垣市図書館では、歴史講座や古文書講座はあるが、歴史小説に関する講座がない。大垣は鈴木輝一郎などの歴史小説家も輩出しているため、こうした作品を取り扱う歴史小説の講座もあるといいと思う。

(事務局)

大河ドラマ『麒麟がくる』の放映に合わせ、今年度のふるさと歴史講座では「本能寺の変の衝撃と美濃の武将たち」をテーマとして、明智光秀を取り上げた。今後、歴史小説を扱う講座も視野に入れて企画していきたい。

閉会 11:30